

イネいもち病とは



写真1. 葉いもちの病斑1

ひし形で内部が灰色である。灰色部に胞子をたくさん作っている。



写真2. 葉いもちの病斑2

写真のように、葉上に夜露が長く残っていると、イネいもち病菌は植物体内に侵入しやすくなり、本病の多発を招く。

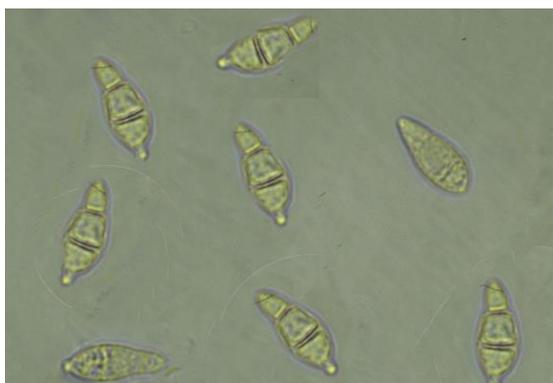


写真3. イネいもち病菌の胞子

ボーリングのピンのような形をしている。大きさは $14\sim 40\times 6\sim 13$ ミクロン（1ミクロンは $1/1000$ mm）である。この胞子は風で飛散し、周囲に広まっていく。



写真5. 穂いもち

穂の基部である「穂くび」が発病すると上部の籾に養分は行き届かず、稔実しなくなる。



写真4. ずり込み症状を呈した水田

葉いもちが多発すると、稲は坪状に枯れ上がってしまう。この症状を「ずり込み症状」という。